

1、園の保育目標

- ① よく考え、よくみつめる
- ② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす
- ③ 友達と元気に仲良く遊ぶ

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

- 1. こども理解
- 2. 幼稚園との連携
- 3. 保護者との相互理解
- 4. 若手保育者の育成
- 5. 環境美化・安全

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
1. こども理解	イヤイヤ期のこどもの対応において、一人ひとりの気持ちを受け止め、その子に応じた言葉かけや保育の進め方を考えることができた。
2. 幼稚園との連携	園庭での活動や配信を通して、幼稚園の活動を保育に取り入れることができた。特に「焼き芋」では、2歳児も一緒に参加することで、保育室でのごっこ遊びへとつながった。また、年少交流では、進級に向けて幼稚園の保育室を訪れ、先生やこども達と関わる中で、進級への期待を高めることができた。
3. 若手保育者の育成	新任職員と中堅職員によるペア研修を年間通して実施した。研修を重ねる中で、互いの理解が深まり、相談や助言がしやすい関係づくりにつながった。また、気づいた点を伝えあうことで、学びを深め、保育の質の向上につながることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。
4. 保護者との相互理解	・いちにち先生を通して一人ひとりの発達段階、育ちを見てもらえたことで、相互理解が深まった。・2歳児のトイレトレーニングでは、保護者懇談会を通して家庭と園で「パンツで過ごす。」という共通理解を図ることができた。保護者の協力を得ながら進めることで、こどもの自立につながった。

5.環境美化・安全	・毎週の安全点検を継続して実施することで一人ひとりの安全に対する意識が高まり、その都度改善につながる事ができた。 ・保健研修では、嘔吐処理方法を見直し、園内研修を通して職員に周知した。今後も継続的に研修を実施し、安全・衛生管理に関する知識と意識の向上に努めていきたい。
-----------	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

○各項目について、職員間の連携を図りながら、計画的に取り組むことができた。こども理解を基盤とした保育の充実、幼稚園や保護者との連携、若手保育者の育成、安全管理体制の見直しなど、それぞれの取り組みが園全体の保育の質の向上に繋がった。今後も課題を共有しながら改善を重ね、安心してこどもを預けられる園作りを進めていきたい。

5、今後取り組む課題

課 題	目 標
保育環境	・一人ひとりの「好きな遊び」を把握し、玩具選びの参考にすることで、落ち着いて過ごせる保育環境を整える。 ・できる限り人数分の玩具を準備し、遊びへの満足につながるよう工夫する。・アフォーダンス(環境からの働きかけ)を意識した環境構成を行う。 ・壁面や室内に植物を取り入れ、自然に触れる機会を取り入れ、様々な事象への興味・関心を育む。
保護者との連携	・月案やクラスだより、保護者懇談会などで連携を図り、こどもの健やかな育ちを共に支える関係づくりに努める。・連絡帳や日々の伝達の中で、こどもが体験したことや思い、その経験がどのような成長に繋がるのかを丁寧に伝え、相互理解に努める。
研修	・積極的に研修に参加し、保育の質の向上に努めるとともに、研修内容を園内で共有し、職員全体の知識を向上に努める。
若手保育者の育成	・引き続き、定期的なグループワークやペア面談を実施し、若手保育者の育成に努める。
環境美化・安全	・一人ひとりが環境美化への意識を高め、継続的に取り組む。・保健に関する園内研修を通して、救急対応や SIDS、感染症予防対策などの知識を深め、安全な保育環境の維持に努める。